

| 調査時期 | 項目 | 共学化に「賛成」「評価する」と回答した理由 | 共学化に「反対」「評価しない」と回答した理由 | 「どちらでもない」「分からない」と回答した理由 |
|-------------------------------|-----------|--|---|--|
| 県立高校将来構想を聞く会 (H11.10 実施) | 伝統・校風 | ○共学化しても良い 伝統 は受け継がれる【⑮】 ○共学化による新しい 伝統 をつくる【⑮】 | ○母校(別学)の 伝統 が続いてほしい【⑮】 | ○ 愛校心 を持った生徒を育てることが大切 |
| | 教育環境 | ○男女が協力し合い、お互いの意見が聞けるなど 学校行事 が活性化する【⑤⑥】 ○学校教育の中で、男女が共に学び、共に考え、共に支え合うことを学ぶことが大切【⑤】 ○別学出身者は、 男女のコミュニケーション を取ることが下手【⑤】 | ○異性の目を気にせずに 自分のアイデンティティ を考える場として別学は必要 ○女子のリーダー教育のために別学は必要 ○共学校では男子が発言・表現できない面が強く、男子を育てる場は残すべき【⑭】 | ○共学・別学よりも 教育内容の充実 をしてほしい |
| | 学力 | | ○共学化すると 学力 が落ちる学校がある【⑫】 | |
| | 学校の選択機会 | ○ 受験資格 に性別があるのは問題 | ○一律の共学化に反対。 別学と共学の選択肢 を残すべき ○共学化は 受験競争 の激化を招く【⑯一般入試出願倍率】 | |
| | その他 | ○小中学校が共学で、 高校だけが別学 という必然性はない ○他県から引っ越してきた者としては、共学化は当たり前 | ○別学を 宮城の特色 と位置づけて学校づくりをすすめてほしい | ○ 学校間の格差 こそが問題である ○共学化により男女共同参画社会が実現されるわけではない。学校教育現場で 男女の役割、特性を理解し合うことを学ばせる工夫 が大切【⑤⑥】 |
| 高校教育に関する県民意識調査 (H20.11 実施) | 伝統・校風 | | ○その学校の 伝統 や 校風 が失われる【⑮】 | ○新しい 校風 になるのは良いことだと思う一方、 歴史 が薄れていくのはどうかと思う【⑮】 |
| | 教育環境 | ○男女が共に学ぶ環境だと、 異性への理解 が深まる【⑤】 ○男女が共に協力し合える教育環境をつくるのが大事【⑤】 ○社会に出る前のステップとして、 男女が共に学ぶ ことが大切【⑤】 | ○別学の方が 学習に集中 できる【⑫】 ○ 異性 に対する 自制 を働かせ、 知識の探求 に集中するためにも、高校時代は別学であるべき【⑫】 | |
| | 学校適応・生徒指導 | ○共学だと いじめ が少なくなる【⑭いじめの件数】 ○共学だと 身だしなみ が良くなる【⑭】 | ○男女の中での いざこざ や トラブル が起こったりするかもしれないし、面倒くさい【⑭】 ○ 精神的に異性を受けつけない生徒 がいる【⑭】 | |
| | 学力 | ○ 学力向上 する【⑫】 | ○ 学力 の 学校間格差 が広がる【⑫】 | ○男女別でも共学でも 学力向上 に関してはあまり変わりはないのでは【⑫】 |
| | 部活動 | | ○元女子高は 施設設備 の問題から、男子の 部活動 に制限がある【⑬】 ○男子運動部(ラグビー部、柔道部等)への 入部者 が少なくなる【⑬】 | |
| | 学校行事 | | ○別学校ならではの 学校行事 がなくなる【⑬】 | |
| | 学校の選択機会 | ○ 性別 による 入学制限 をすべきではない | ○一律共学化は、 生徒の多様な個性や特性 に対応した 学校づくり の推進と矛盾する【⑧】 ○別学を選択する自由があってもよい ○別学校を希望する 生徒 は、公立高校に進学できなくなる ○共学化は 受験競争 の激化を招く【⑯一般入試出願倍率】 | ○ 学校間の競争 の激化につながる【⑯一般入試出願倍率】 |
| | その他 | ○ 公立校 は共学であるべき ○共学が 自然 である ○共学は 時代の流れ である ○ 男女共同参画社会の実現 のためには、高校教育は共学であるべき ○ 少子化 により 生徒数 が減少している中であっては、別学校の 統合 を進めるべき | ○すべての高校を 一律に共学化 する必要はない ○ 県財政 が 困難 の中にあっても、 敢えて進める 必要はない ○ 受験に関するデータ がなく、 受験 が不安【⑦】 | ○ 一律共学化 する 意義・利点 がいまひとつ理解できない ○男女共学イコール 男女共同参画社会 ではない ○ 施設等 の実務レベルが見えてこない。別学校が すばらしい共学校 になるということが示されなければ 賛成 できない |

※網掛部分は、男女共学化を評価する観点

※男女共学化を評価する観点のうち、【資料4】の「現状把握のための視点・データについて」において列記している検証指標又はデータについては、該当箇所を【①・・・】と記載している。